

史遊会通信

No.238号
平成27年
1月10日

編集
042-754-9360
arai-hiroshi@
jcom.home.ne.jp
新井宏

十一月討論会「日本列島にし・ひがし」

司会 鯨 游海

司会 今日、東西の差というものについて、皆さんの人生経験上感じたことを語って頂きます。東西は常識的なところで、フォッサ・マグナを境にしましょう。

諸橋 戦前は郷里の外へ出ることは無かった。私は長岡だが、大学受験で初めて県外へ出て仙台に行き、雪のない正月にビックリした。国定教科書に出てくる千早船や楠木正成のくすという木もみたことなく南方の木だというので植生というものを知った。会社に入り名古屋の社宅でクマゼミの声に驚かされた。私は昆虫少年だったが、クマゼミは箱根以南にしかいなかったのだ。東西は言葉、生活文化

悉く違う。信仰・宗教も違う。私は人種も違うのでは、と思う。

太田 私は浜松出身、東西の接点で育った。東西の差もあるが、もう一つ中部文化というものもある。文化は東上する、という。従っ

て時代によっても異なる。古くは尾張も東国であったが鎌倉時代は遠州から東国になった。新井 私は疎開で新潟にいたことがあり、新潟訛りはよくわかる。言葉の分布が気になる。『居る』ことをフォッサマグナ以東はイルと言、西や富山、岐阜はオルという。和歌山はアル、韓国はイツタという。発音の仕方も違う。東、北の方では濁音が多い。東北人は酒田をサガダと言う。これは韓国も同じ。

司会 気温と関係あるのでは？

新井 寒いから口を開けないせいかも。

柴田 私は列島全体は弥生時代以降変わったと思う。縄文人に弥生人が入り込み混血して倭人になるが、混血は西から東へと進んだため、東では縄文人の痕跡が多く残ったのではなからうか。

幹事からのお知らせ

- 一、一月例会当日、講演開始前に総会を開催します。
 - 二、三月の例会開催日は、三月二十四日(火)と一日繰り上がりました。お間違いないよう、お願いします。
 - 三、先月、年会費の振替用紙をお送りしましたが、まだお済みでない方は、今月中にご送金をお願い致します。
- 正会員は年二回払いから一回に、友の会会員は都度払いから、年一回に変わりました。

例会のお知らせ

- ◎ 一月総会 平成27年1月28日(水)
午後6時10分～8時
会場 日比谷図書文化館四階
講演 新井 宏氏
テーマ 出雲風土記と古韓尺
二月号自由執筆 太田精一、森下征二、佐藤健一の諸氏 締切一月末
- ◎ 二月例会 平成27年2月25日(水)
午後6時10分～8時
会場 日比谷図書文化館四階
講演 漆原 直子氏
テーマ 薬物の歴史と今日の問題
三月号自由執筆 村上邦治、漆原直子、諸橋奏の諸氏 締切二月末

司会 私は東京へ来て東北人の多いのに驚いた。大阪、京都では東北人は例外的。東京は半分くらい東北人ではないか。

漆原 学生時代に京都大学の学食に入ったら納豆が無かった。食文化の差は大きいと思う。それと、女性の座り方で、昔は片膝たてて座るのが普通だったようで、秀吉の妻寧々の坐像も片膝建てだ。朝鮮がそうだから、やはりその影響が強いのかと思う。

高橋 私は東京育ちで体験上はあまり東西の差を感じたことがない。学生時代に『東西文化交替論』が言われた。交互に流行る。宗教思想でも浄土教的 세계観は京では九百年ころ水を引くようになくなる。ところが、関東では、金沢文庫の古文書にもあるが、浄土思想は非常に具体的に豊かなものになる。浄土思想が西から東へと段々移っていった。

司会 宗教の推移があるということだね。その後鎌倉仏教がでてきた。

神津 私は父母ともに信州で、東西の真中。

二歳で東京へ来たので信州のことは何も知らない。ただ六年広島にいたので、その経験を言うと、ラーメン、うどんの色の違いに驚いた。言葉では河野を西はカワノといい、東はコウノと言う人が多い。また、西は濁音は少ない。食べ物では納豆はなく、知らない人が多い。顔立ちでは東は彫りの深い人が多い。

司会 ラーメン、うどんは誰が何と言っても西が旨い。だしを西は昆布で東は鰹節でとるが、昆布のほうが上。味は西が上だ。

中込 皆さん高尚なことを言っているが、私は食物に限って三つ言う。一、鮭文化と鰯文化。鮭は東、鰯は西。二つ目は葱。白い所を珍重するのが東、西は青い部分を、関東では捨てているところを食う。三は餅。西は丸く東は四角。のし餅とか、或いは東北では切りだめに入れて押し付け、分厚い餅にしてたてに、短冊形に切る。粉は上下に付き断面に付かない。なぜかという交通機関が発達しておらず、中部山岳地帯を越えるのも大変だったから人の往来は無かったせいだ。

司会 かえって縄文時代のほうが自由だったかも知れんね。制度的にも移動を禁じられていたのではないか。

漆原 縄文の時代、海の交流とか、人の往来は結構あったのでは？

中込 海は日本海側はあったかも知れぬが、太平洋側はあまり無かったのではないか。文化は数人や数百人が移動しただけでは順応はできない。もっと広い交流がないと。

司会 昔は日本海側がオモテ、太平洋側がウラだったのは事実。逆転したのは戦後かもしれない。では次に広島出身、仙台、東京と東西の経験をされている森下さん。

森下 話の趣旨が違ふかもしれないが、資料を準備したので見てほしい。東の大関・安積良斎、西の大関・斎藤拙堂、これは幕末の学者番付。東の良斎の末裔は私の長年の友人であり、先週三重県の津で拙堂の末裔にも会ってきた。良斎、拙堂ともに朱子学を基本にし、

歴史に詳しく、漢詩にも強かった。また洋学にも関係している。学問の面でいうと、東西二人の差はなかった。ただ、幕府は江戸にあり江戸が日本の中心であった。江戸にいた良斎と、津にいた拙堂、ということが差を生んだ。資料のそれぞれの弟子を見てほしい。良斎の弟子松陰・晋作・小栗上野介・芥舟・谷干城などの錚々たる顔ぶれに比し拙堂のほうは限られており、国を動かすまで至らなかった。それから良斎はペリー来航時やプチャーチンの時に国書訳という仕事をしている。拙堂の弟子河井継之助は拙堂を評して『治世の能吏、惜しむらくは思想が無い』と言っているが要は江戸にいたか津にいたかの差ではないか。学問的には東西の差は無かった、というのが私の結論だ。

司会 面白い観点から、貴重なお考え、ありがとうございます。次に長島さん。

長島 九州はサケといえれば日本酒ではなく皆焼酎で困った。あれは何なのか。椎葉の神楽をみたことがあるが、宮崎県なのに鹿児島、熊本の影響を受け、沖繩っぽいところもある。それから、佐渡で聞いた話だが、田中という姓が二種類あるという。タナカとイントネーションをつけるのは関西からきた田中だろう。今は殆ど区別つかないだろうが、年寄りにはしている。

司会 田中という姓は関西に圧倒的に多い。**長島** また宇佐八幡の禁足の山に登ったことがあるが、関東では見えない太いみみずがやた

らと出てきて驚いたことがある。それから、刃物を研ぐ砥石だが、東では出ない。造山活動の影響でフォッサマグナ以東からは出ない。西は、石はあれど掘手がいなくて、刀鍛冶が困って文化庁に泣きついてる。

漆原 郷里の宮城県でとれるが

長島 それは刀鍛冶が使う砥石ではない。美しく研ぐ為には西の、特に京都産の砥石でなければならぬ。

司会 焼酎は九州でこっちはほうにはない。

長島 気温のせいと思う。九州は暑いから、蒸留するしかなかったのでは？

村上 頼山陽や朝ドラのマッサンと同様広島

県竹原出身。二十六歳まで関西、以後東京。

大阪時代に京都のおかみから聞いたのだが、東人は下品だという。何にでも醤油をかける、という。味も西は薄く、東は濃い。これはやはり醤油によるのではないか？

司会 食い物は西が断然上。勝負にならない。それから京都女性は京都弁を使うが、あれは自慢しているのだ。プライドを持っている。

エスカレーターで東京は左に立つが、大阪は右、京都は六・四で右、名古屋は半々。その理由を考えるに、侍文化と町人文化の違いではないか。武士は刀を使うために右側をフリーハンドにしておきたいからではないか？

森下 そういう説は確かにある。

長島 明治の時に、イギリスを先生にしたから間違えた。右ハンドルだが人間工学的には左ハンドルのほうがいい。刀と同じ。

太田 これは交通ルールの問題。それを英国流にしたからハンドルもそれに合わせた。

平山 関西から東京へ転勤してきた社員が大いに驚いたのは交通マナー。二車線が一車線になる時、東京は交互に整然と行く、と驚いている。関西ではどうするんだと言ったら、

『一方は何とか入れまいとし、もう一方はなんとか入り込もうと双方必死になる』という。駅のホームでも関西は電車が入るとそれまで並んでいても、皆がわつと入口に殺到する、という。この東西の差は何故なのか？

司会 交通マナーは確かに関西は悪い。中国・朝鮮の影響だと思う。向こうから来た人が多いのではないか。

太田 生存競争の激しさではないか。中近東も同じだ。どこでも殆ど並ばない。

新井 商売はやはり先んじたほうが勝つ。遠慮していたら生きられない。

司会 それともうひとつ、東京はかっこつける。何となくね。

新井 中国人は日本へ来て、整然と何かしているのを見てびっくりする。中国だと三代しないとそうならない、と言う。よく言われるのは関西では黄信号になるとスピードを上げる。本当は生まれ、なんだ。

中込 中国は信号守らない。赤でも減速だけ。

諸橋 中近東のマナーの悪さは凄い。中国も悪いけれどもね。

新井 交通ルールを守る点で日本に似ているのはドイツではないか。(賛同の声)

司会 正確に言うるとドイツに似ているのは東京で大阪ではない。大阪はイタリア並みか。

新井 韓国も悪い。交通事故は非常に多い。

村上 大阪を弁護するわけではないが、電車の間隔が短ければ、整然と乗るのでは。山手線のように頻繁なものと、そうでないのでは違うだろう。大阪でも環状線ではきちんとしてる。あまり違いはないのではないか。

新井 京都と大阪ではかなり違うだろうか？

司会 かなり違う。そしてお互いに軽蔑している。大阪には経済力があるから、その差だ。例えば、伏見など京都だが大阪に近い。これも経済力があるからだ。

新井 関西でも侍のいた城下町はどうか。

村上 それは京都に近いと思う。上品だ。上下関係もわりかし確りしている。熊本など、今でも細川さんを大名だと思っている。

諸橋 もう一つ私が驚いたのは、東京から優秀な支社長が行くが皆一年ともたない。日本

海岸へ東京から行った支社長は皆駄目。例えば、鳥取でも島根でも支社長さんが来るとうと必ず飯をだす。東京から来た人は食わない。雪の中を漕いで行くのだから、あるもので飯を食わせるのは当たり前。私は喜んで食べた。客の飯を食うのはどうかというが、次に行った時、先日はご馳走さん、と何かお返しをすれば良い。私は「営業の神様」と言われた。情の世界は日本海側と太平洋側では丸きり違う。

森下 日本海側と太平洋側で比べて前者に美人が多いというのはどうか？

諸橋 津軽美人、秋田おぼこ、庄内美人、越後美人と昔から決まっている。京都も日本海側だ。丹後、但馬もいい。

太田 日本海側は日照時間が少ないから、色白が多い。色の白いは七難かくす、という。もう一つは縄文時代かも知れぬがオホーツクとの交流が盛んだった。その血が相当入っているのではないか。碧眼もいる。

中込 太平洋側は混血がない。混血は美人を産む。何かで読んだのだが、西日本は男文化、東日本は女文化だという。普通逆に考える。

ものの考えかた、歴史の事跡、出処進退の潔さ等を見ると男らしいのは西日本だ、という。明治維新も西からだ。

森下 物凄い女性は東だ。北条政子など日本人離れしている。他にも板額御前とか。

司会 現代で言えば、漆原さんとか。今日聞いていると、思った以上に差があつて面白い。握り飯は東は三角、西は俵型、名古屋は真ん丸。(越後・羽黒・九州は太鼓型、との声)大阪は昆布で巻き、東京は海苔で巻く。

では、何か言い残したことをお一人ひとりに言。

村上 関西は昆布の文化とも言えるのでは

長島 東は蕎麦といわれるが、関東はうどんが多かった。蕎麦がはやるのは三十年代以降落語などの影響ではないか。(異論あり)

森下 三点。まずおいしい魚。東は鮪、西は鯛。それから寿司。西は押し寿司、東は握り。

三番目は稲の干し方。西は横に渡した竿にかけるが東北へ行くと、一本の棒のまわりに丸く積み上げる。あれは驚いた。

中込 言葉が関西はイントネーションが頭にあることが多い。

神津 確かに語頭を強める。食物は西。松山でうどんを食べたところ、天地が引っくり返るほど旨かった。あれは忘れられない。

高橋 日本の文化の変化はやはり京都だと思ふ。古い文化は言葉でも発音でも東北とか沖繩とかに残っている。京都は割り早く変わりは始めたのではないか。

漆原 蕎麦は痩せた土地、うどんは豊かな、渡来系の人が多い土地というのを聞いたことがある。それから、東は縄文系が色濃く残っていて母系制社会であつたようで、やはり弥生系というのは男性が圧倒的に多かつたやうなので西日本が男文化だったのでは。

柴田 父は奈良県出身で十八で東京に出た。母も和歌山県で隣なので家の中では関西弁でやつていた。横浜で焼け出されてから五年程奈良県で暮らした。向こうの言う事もこっちの言うことも解るがやはり大分違う。言葉というものはイントネーションを含め、小さいときの影響は大きい。

新井 私のことをあらいさんと言う人がいる。伊豆半島から西で東京ではない。ところで日本で外国と戦争したのは全部関西。元寇、馬関、薩摩と皆関西で関東は参加していない。東北は流動性が少なかったかも知れぬ。

司会 漆原さんの言う、男文化か。

太田 私は浜松で東西の文化圏の交流する所。言葉では、「行かない、ゆかん」「買った、こた」。「おとついで、おととい」両方使う。嘘っぱち、やせつぱち、は東で、西は使わないが、私は使う。食べ物では鰻の蒲焼は東西両式ある。関東のほうが旨いと思うけども。制度では、名主は関東、庄屋は関西、江戸期の公文書は「名主庄屋」と併記している。浜松は両方使う。まさに混在文化圏だ。豊かになると文化は洗練されて来る。関西文化は、高い低いではなく、洗練された文化だと言えると思ふ。

諸橋 島国日本は世界稀な存在。その日本の中で東西南北、民族を異にするのではというくらい違う。実に面白い。それから、東西の違いを考える場合、江戸開府以前と後とは区別しなければならぬ。

平山 岡本雅亨という人が今年七月、『民族の創出』という本を書き、日本単一民族論はおかしい、出雲族・蝦夷・熊襲・アイヌ等、様々な文化を持った民族がいたということに認めべきだと言っており、同感だ。

司会 それでは、この辺で。

(文責 平山)

自由執筆

高山右近マニラ追放のタイムミング

鍋屋次郎

慶長十二年当時のキリシタンは、実質的に「禁教下」ではなくなっていた。

秀吉の死後であるが、前田家庇護下の高山右近による金沢での教会の建設、そこにバテレンが駐在し、前田領加賀・能登・越中では、教会が複数建築され、前田家筆頭家老の横山氏の嫡男が高山右近の娘を正室に迎えるなど、社会的にはキリシタンは他者(よそもの)ではなくなりつつあった。

徳川家康のキリシタン対応は、関ヶ原で勝利を得た後、ポルトガル貿易を大切にし、イエズス会の宣教師ジョアン・ロドリゲスと会ったり、ポルトガル船の欠航で財政難に陥っていたイエズス会に経済的援助を行い、宣教師の日本居住や布教活動を黙認するなど、徳川政権初期にはキリシタン活動を積極的に支援さえも行っていった。

ところが慶長十二年(一六一二)有馬晴信、岡本大八の両名が有馬晴信旧領の返還に絡む贈収賄発覚で処刑。二人ともキリシタンであった。江戸城内にもキリシタンがいたことが分かり、家康は自領内でのキリシタンを禁教した。

慶長十三年(一六一三)家康は前年自領内でのキリシタン禁教令を全国禁教とした。

慶長十四年(一六一四)九月、高山右近等をマニラへの追放を命令した。

慶長十四年(一六一四)十月、大阪冬の陣。慶長十五年(一六一五)四月、大阪夏の陣。

このようにキリシタン禁教令と高山右近の追放、大阪冬と夏の陣を時系列的に並べてみると、家康は豊臣軍との戦いに圧倒的な勝利は確信するものの、家康の頭の中では高山右近とキリシタンへの警戒が抜け切れていなかったのではなからうか。

高山右近を長崎まで護送するとき、護送団は当然江戸幕閣の指示を得ていたと思うが、近江坂本で、なんと一か月間程度足止めをさせられている。何故一か月間も足止めさせられたのだろうか。近江坂本と言えば、地理的には京都中心のキリシタン勢力が高山右近を奪還にすることも考えなければならぬ地域である。足止め理由は、このまま長崎へ護送するのか、または、江戸で処刑するのか、江戸幕閣本部へのお伺いの期間であったと考えられる。

結局江戸幕府は、高山右近を国内で処刑することを避けた。高山右近を国外に追放してしまえば、各地のキリシタンにしても、豊臣方にしても高山右近を担ぎ出すことはできなくなる。それが徳川の狙いであった。

ところが前述の慶長十二年(一六一二)、本多正信の与力岡本大八の有馬晴信との贈収賄事件をきっかけに、家康のお膝元江戸城内からもキリシタンの侍女が発見され、八丈島へ島流した。同時に、キリシタン禁教を他大名所領地にも拡大し、日本全国が禁教となった。豊臣方の浪人召し抱えの活発な動きから、家康の頭の中に、キリシタンの中で最も信頼の厚い高山右近をリーダーとしたキリシタンの動きを警戒し、冬の陣直前の高山右近マニラへの追放という決定を行ったのではなからうか。

自由執筆

史遊会々誌出版に関するプレゼン

高橋 正彦

五年に一度の会誌出版に関し、二百万円掛るが、複数の百部単位の引受会員の逝去により、個人負担が高まり、出版は難しいとの話が漏れ聞こえて来るようです。

これ等は出版社・取次店経由販売を念頭とするが、そもそも大部分返本の店頭陳列の現状を超える物を提供しうる御自信はあるのでしょうか。――可能性なく過去に販売の実績なき場合は、学術出版(又はオンデマンド印

刷)の方向に転換すべきではないかと思ひます。

希望者間で必要部数・必要形態(書籍形態・書籍取次番号 ISBN 付与・国会図書館要約)、費用負担額(趣味道楽に付き費用負担構いなし、又は最少額を希望等) 素案或いは見積りをメール等で突き合わせるべきかと思ひます。

――私は以下の理由により学術出版・オンデマンド方式(注文入り次第で漸次印刷)による最少部数・最少費用方式を提唱致します。

出版物が売れるか否かは、①その内容訴求力・②メディア露出力・③著者名由来の訴求力にあり、当方予定稿(陵墓軸線・企画線は磁針を基準とする)は①②では訴求力があると思ひます。以下①②に付いて述べます。

① 内容に関するインパクト

(1) 地磁気の2k年幅の変移の一例は提示した図(平岡説:紙面の関係で掲載いたしません)が、高橋さんに連絡すると入手できます)であり、中近世は異論がない(伊能忠敬以前は弱東偏、以後弱西偏(西六度)。是に対し五百年以前は東二十度弱から西二十度弱に大変し、その過渡年を四三〇年・三〇〇年頃とする異説(平岡説・渋谷説)がある。

(2) 是に対し天皇諸陵の軸線より、その過渡点は三〇〇年頃と推定できる。

(3) 著墓の軸線【宮内庁最新公開図】はこの要(かなめ)石的な情報を与え、更に水月湖

の年縞の磁気最新【未公表データ】は(2)を支持する様である。(後者の一年刻み年縞は炭素十四年代の世界標準となる事が二〇一二年に確認された)

(4) 右公開の場合、恐らく旧石器問題に密着した感のある富山大・平岡説は否定される。

――以上は極めて衝撃的な事実である(5) 更に、【水月湖の一年刻みデータ】から、磁気曲線の最東偏の山の年次が紀元二七〇庚寅年(辛卯は二七一年)直近であると確定した場合、著墓は寅の方位を取ることで、明確な年次記録(帝紀・旧事)が既に存在した事になる。

② メディア露出力・学問上の訴求力(1) 以上の説は主にウェブ上で公開される。既に左図同等の図はグーグル画像検索において永らく上位にランクされ、放置状態のホームページも近日大幅改組し宣伝する積りです。

③ 訴求力上の留意点

右論は一般の訴求力に訴える都合上、A3版二色(赤黒)図面、その他図版・表を多用せざるを得ずA4(又はB5)版横組み学術出版形式が最も適すと思われる。縦組み小説系とは相容れないように見える。然し、是は組版・校正段階を自前負担とする場合は可能のように思える。出版費用の半数は組版・編集校正であると考えるので、自前形式の場合かなり出版費用が安くなるよう思える。(費用はアマゾ

ン委託販売(登録代行料一万円、ブックメイ社のオンデマンド印刷の自費出版パック)一五八〇〇〇円/論文出版パックの場合は五九〇〇〇円。原稿はPDFデータで入稿/但し、広告費はアマゾン上のウェブ広告のみ。その他の宣伝広告は各自の責任となる。「小林多喜二・・・」八四〇円を出した方の例では、販売はツイッター上の知己千人を対象に約百部販売との事です。)

――以上、御配慮お願い申し上げます。

一月講演予告

出雲風土記と古韓尺

新井 宏

和銅六年(七一三)の元明天皇の詔に基づき、各国風土記が撰上されたのが今から丁度千三百年前である。昨年は高田宮典子様と出雲大社の千家国麿氏の結婚式も行われ、何かと出雲風土記が注目された一年であった。

出雲は元々は神話の世界であったが、近年は考古学の世界に様変わりである。それはますますの謎を生んでいる。

風土記研究会という専門学会もあり、研究し尽くされた感じのある出雲風土記であるが、わが研究「古韓尺」という新たな側面から光りを当てると、まだまだ面白い成果が生まれている。このところ、関連しての講演も多く行っている。会でも一度紹介したい。